



支援先グループ名	支援国名	今年度支援額 [送金月]	支援・活動内容他
1 PSHF (フィリピン自立援助基金) Philippine Self Help Foundation MA-MIE食堂 キャンバガオ農業グループ タジックさん一家	フィリピン	400,000 円 [15.6] *91年～ 毎年支援	所得向上のための少額ローンを個人またはグループに貸付けることで支援するプロジェクトです。3つのプロジェクトを支援しました。 ①MA-MIE食堂：女性3人の親戚グループ。大学の食堂やオフィスで食事を作ったり、売ったりして生計を立てています。温かい食事を提供するために、調理器具を運ぶサイドカー付きオートバイ購入のローンを申請。*2014/15年度、2015/16年度で支援しました。 ②キャンバガオ農業グループ：3人の米作り農家が、農業収入を増やすために作ったグループ。耕運機を購入するためにローンを申請。現在は年額191,000円で借りていますが、耕運機を購入することで、この額を節約できます。1年以内にローン完済の計画。 ③アーネル・タジック：米作りで新ビジネスを始める計画で、カラバオ(水牛)を購入するためにローンを申請。水牛で犁を引けば自分の土地を効率的に耕すことができ、地元の他の農民のために、下請けで耕作の仕事を請け負うこともできます。現在の月額収入¥15,000に加えて、さらに¥10,000と高額の増収を期待しています。2013年10月の地震で家を失い、ココナツの木のほぼ半数が被害を受けて収入が激減しましたが、幸運にも3,000㎡の米作地があって、少ないですが安定的な収入はあります。家もPSHFの助けて建て替えることができました。
2 AVILASH アビラッシュ (AVILASH-A Voluntary Welfare Organisation for Women) 美容師職業訓練	インド/カルカッタ	97,176 円 [15.12] *93年～ 毎年支援	1989年アジア学院の卒業生により設立。自立支援と教育を目的とした活動を通じ、女性による所得向上プロジェクトも行っています。美容師職業訓練(6ヵ月コースx2回)を支援し、合計22名の女性が訓練を受けました。訓練後、美容室で働くことで収入を得るだけでなく、さらに技術も取得できるので、お祭りや結婚式等での仕事を得ることもできます。貧しい家族の所得向上が期待されます。アトクリシュナランブールの託児所では、低所得層の両親をもつ20人の子供たち(2-6才)が、基本的な教育や、学校に通う習慣を身に付けています。託児所に通った子供たちは、小学校に行っても平均して成績は良く、脱落者が少ないそうです。
3 カラ=西アフリカ農村自立協力会 Association Pour Cooperation L-Autogestion Rural en Afrique d'Ouest 産院	マリ	200,000 円 *支援予定 プロジェクト検討中 *94年～ ほぼ毎年支援	職業訓練、保健、教育の村単位のプロジェクトを行なっています。代表の村上一枝氏は、砂漠化の進む西アフリカの農村に住む人たちが自らの意志、力で生活自立できるようにプロジェクトを進めています。ニャマコログー村の新規建設産院開設設備の一部を支援しました。人口約350人の村に医療機関(医師も看護師も)がなく、また女性の識字率がゼロだったため、助産師の育成は不可能でした。ようやく文字を覚え、村の信頼を得る村出身の女性が誕生し、助産師育成の研修が可能になりました。長年の、産院開設を切望する村人の願いが叶いました。医者がいないので、助産師が医者以上の仕事をなさるそうです。開院後の運営は、村の産院自主管理委員会に移管されます。2015年度の新プロジェクトは検討中です。
4 (学) アジア学院 (アジア農村指導者養成専門学校) 入学式	日本	100,000 円 [16.4] *94年～ 毎年支援	アジアその他、発展途上国の農村地域社会の人々の生活向上と繁栄に献身する中堅指導者の養成を目的として、栃木県那須塩原市に1973年に設立された学校法人です。有機農業による自給自足の生活を基盤とした研修を行っています。卒業生が母国に戻り、自らNGOを始めたり、既存の団体に参加して、WFFやILCAにコンタクトしてきています。毎年、15～16ヵ国から25～30人が農村指導者養成の研修プログラムに参加し、9ヵ月間、いのちを支える「たべもの」作りにこだわり、有機農業による自給自足の生活を基盤として、自国のコミュニティーの自立を導くよう学びます。研修後は母国のコミュニティーのために、リーダーとして人々と共に歩みます。今年度は14ヵ国、28名の学生が学んでいます。
5 SEEDS シーズ (Socio-Economic Educational Development Service India: 社会・経済・教育・開発サービス) 洋裁プロジェクト	インド/南部ケララ	251,248 円 [15.7] *95年～ 毎年支援	1989年にアジア学院の卒業生のマシュー牧師が設立。カーストの低い人々、障害を持つ人々が自活できるように、雇用の場を作ったり託児所の開設、母親の衛生教育、苗木の育成・配布などを実施。夫人は、聾唖の女性の自活のために、菩提樹の葉のカード作りプロジェクトを実施しており、ILCAでも販売しています。「鶏小屋プロジェクト」は、3つの不可蝕賤民の村で12(昨年12)のダリトの家族に鶏小屋を配布しました。昨年の受益者たちが43羽(昨年は48羽)のひよこの提供と共に、飼育方法も伝授しました。「洋裁プロジェクト」は、28人(昨年28)の女性を対象に訓練を行いました。1年間の訓練終了後、5人(昨年4人)が地元の既製品店で職を得、数人が自分の事業を始め、他はパートタイムの仕事を得ました。
6 エキュメニカル開発基金 Ecumenical Development Foundation 苗床作り職業訓練	ザンビア	126,970 円 [15.6] *99年～ 毎年支援	リーダーのジョン・ニョンドさんとジュディス・ダカさんご夫妻は、いずれもアジア学院の卒業生。人々の所得向上のために、職業訓練(養蜂、洋裁、木工技術等の習得)を行っています。また、性的虐待を受けている女性や少女に職業訓練をし、生きていくための技術を身に付け社会復帰させるプロジェクトも行っており、WFFでは2015年度も支援しました。15人の若い女性にさまざまな種の苗床作りの訓練を行いました。訓練は有機堆肥肥料作りに焦点を当てて行ない、液体肥料作りや害虫抑制技術も学びました。すべての参加者がそれぞれの村で種の苗床作りを実践して、他の人々に提供しています。
7 児童福祉計画 (Child Welfare Scheme) 職業訓練	ネパール	125,460 円 [15.12] *02年～ 毎年支援	英国人のダグラス・マクラガン氏が1995年にネパール人の妻と共に、ストリートチルドレンを中心とした子供・青少年支援を目的にNGOを設立。地方の村にヘルスセンター、アジャ・クリニックを開設。WFFは、ジョティ職業訓練センター(寄宿制と通学制の2年間コース)を支援しています。今回は、家庭内暴力の被害者や、精神病を患う人のための保護施設「コピラ・セーフ・ホーム」の職業訓練活動を支援しました。ネパール地震(2015.4.15.発生)緊急支援関係については、第一段階の緊急援助から、第二段階の台風に耐える仮設住居、学校、第三段階の9ヵ村のコミュニティー支援、恒久的住居と学校建設と、復興、再建に向かっていると報告がきています。